

トピック ― 本格的な需要期を迎えるはくさいの消費動向 ―

はくさいは、俳句で冬の季語にも用いられるように、冬を代表する食材であり、特に鍋物や漬物の需要が伸びる10～12月の時期は年間で最も家計の購入数量が多くなる。

はくさいの月別の世帯購入量と平均気温の関係をみると、数量は、秋から年末にかけては、家庭で漬ける漬物需要も一部加わり、気温の低下とともに大きく伸びる傾向がある。一方、年明けの1月以降は気温の上昇とともに大きく減少する傾向がみられる。

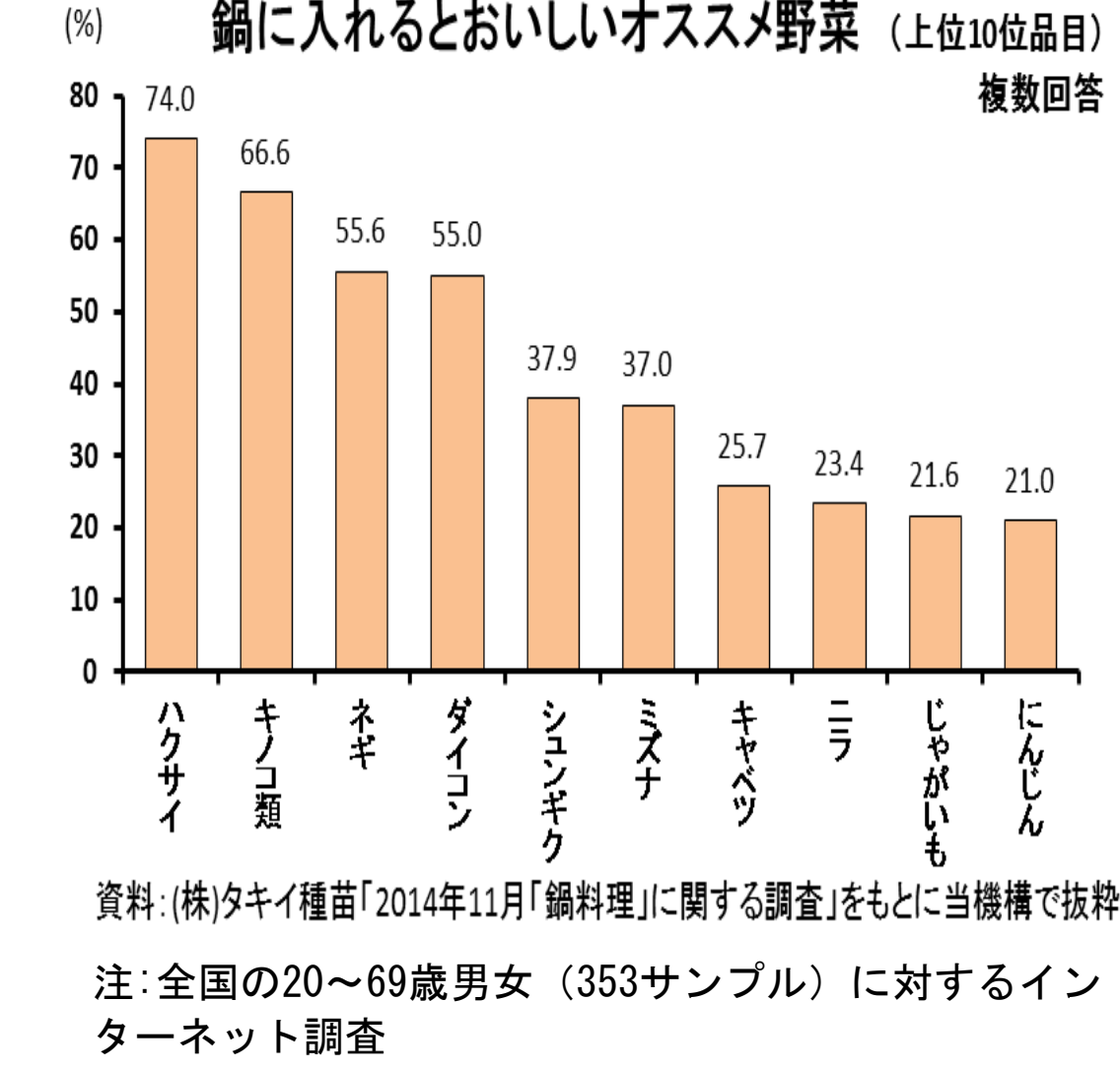
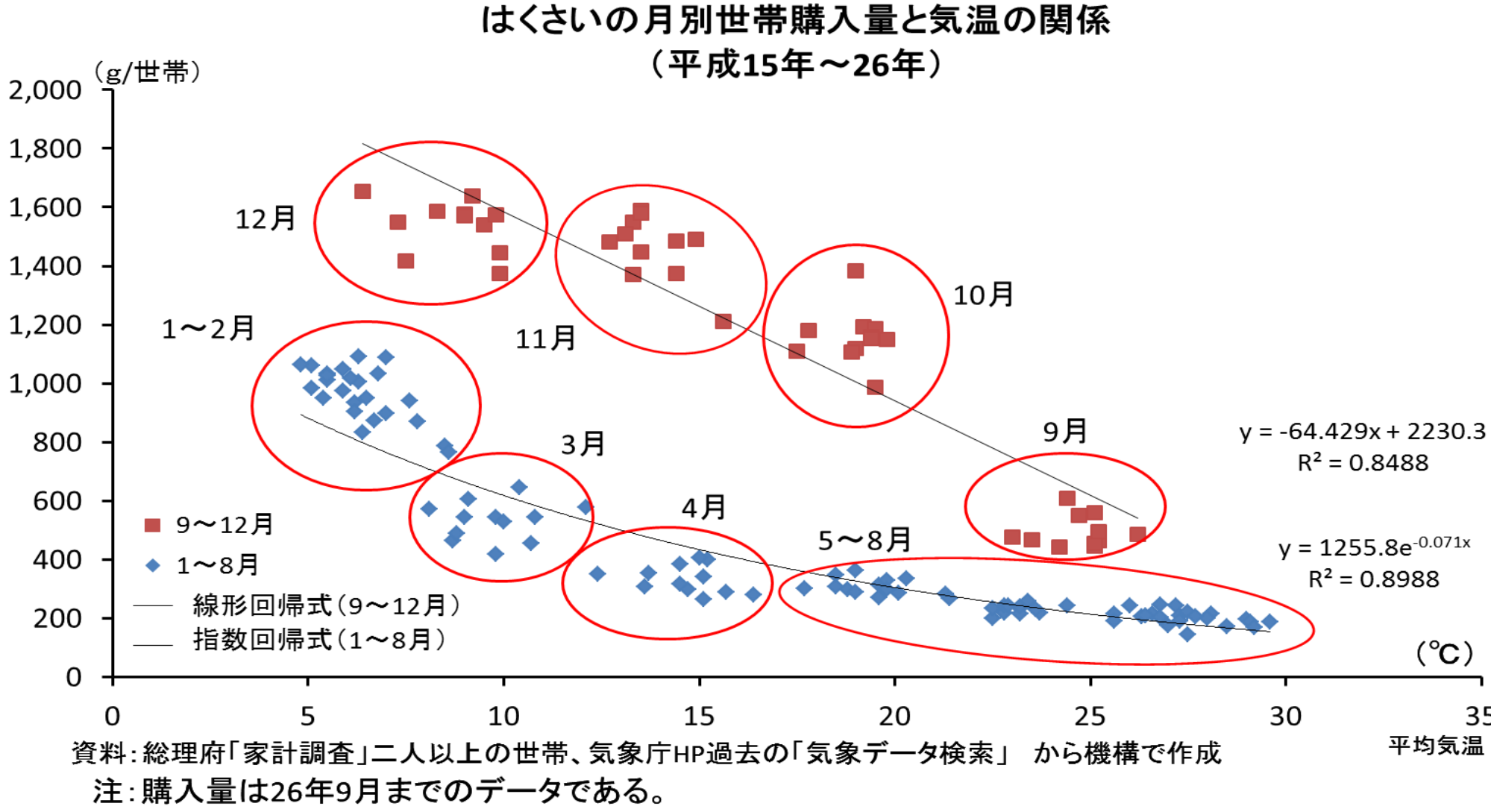
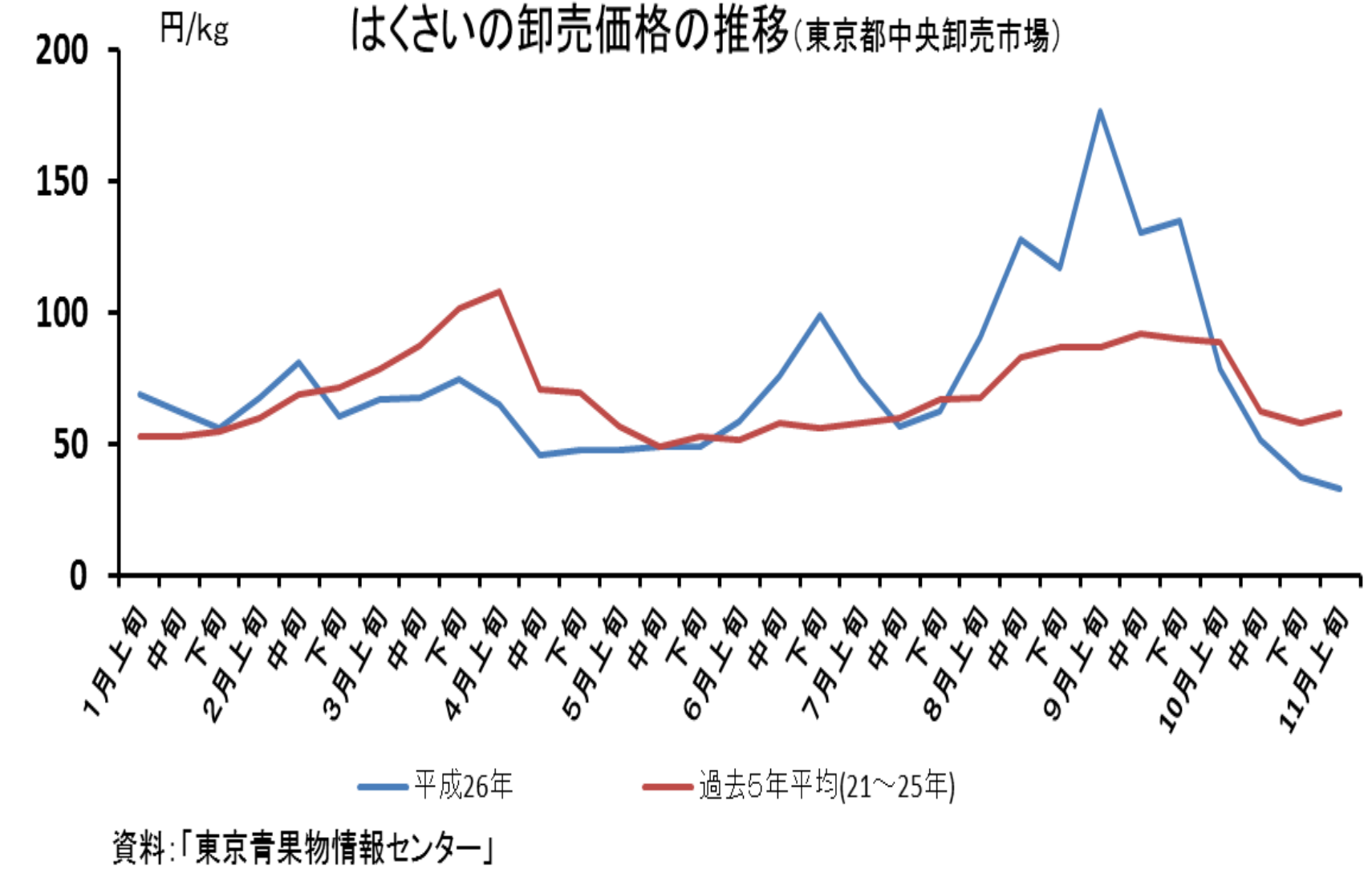
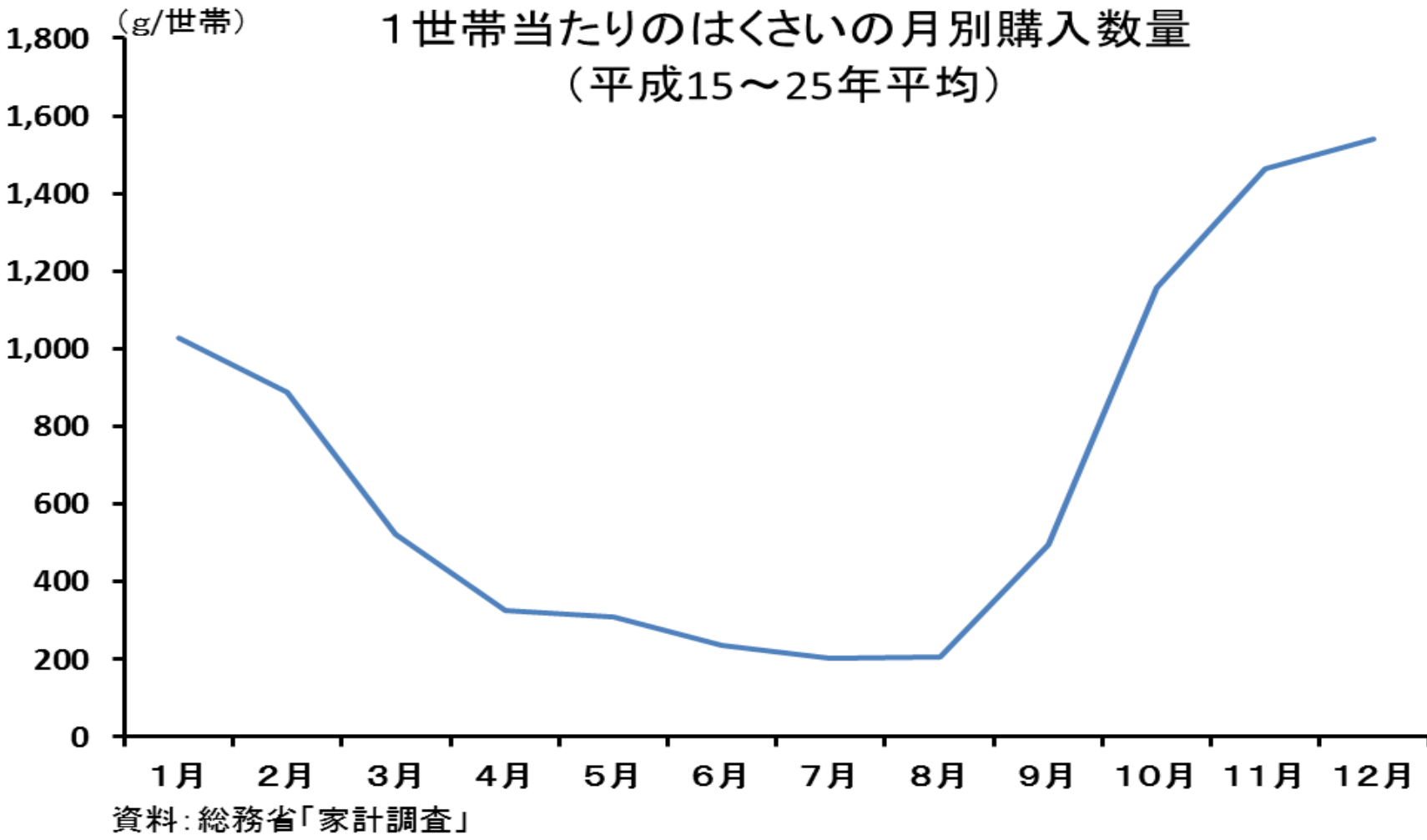
はくさいは、季節や気温（冷え込み）の違い等による需要変動が大きい中で、気象変動等に伴う豊凶や産地の出荷時期のズレが生じやすいこともあり、価格変動が大きくなることがある。特に本年は、8月中下旬から9月にかけて作柄不良から卸売価格が高騰したが、その後は生育・出荷も順調となり、10月以降は一転して平年を大きく下回っている。

今年の11月から来年1月は暖冬傾向と予想（気象庁3か月予報）されており、今後の鍋物需要の動きが少し気になるところである。最近では、キムチ、カレー、トマト風味等のレトルトパックの「つゆ」や、野菜等の具材入りの鍋物セット、「一人鍋」用セットなど、鍋物用の食材のレパートリーも広がっている。

さらに、これから忘年会・新年会のシーズンに入り、お正月の家族団らん等の機会も増える中で、定番人気はやはり鍋物である。

はくさいは、カリウム、ビタミン、食物繊維が豊富な野菜であり、「鍋に入れるとおいしいオススメ野菜」で第1位という調査結果もある。

主要産地の生育・出荷も順調であるが見込まれており、価格も現在は購入しやすい水準にあるので、冬本番を迎えて、今後の消費の伸びが期待される。



レシピの詳細は、農水省HPを参照
http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/menu/pdf/nabe5_hakusai.pdf

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。